

## 取り付け上の注意

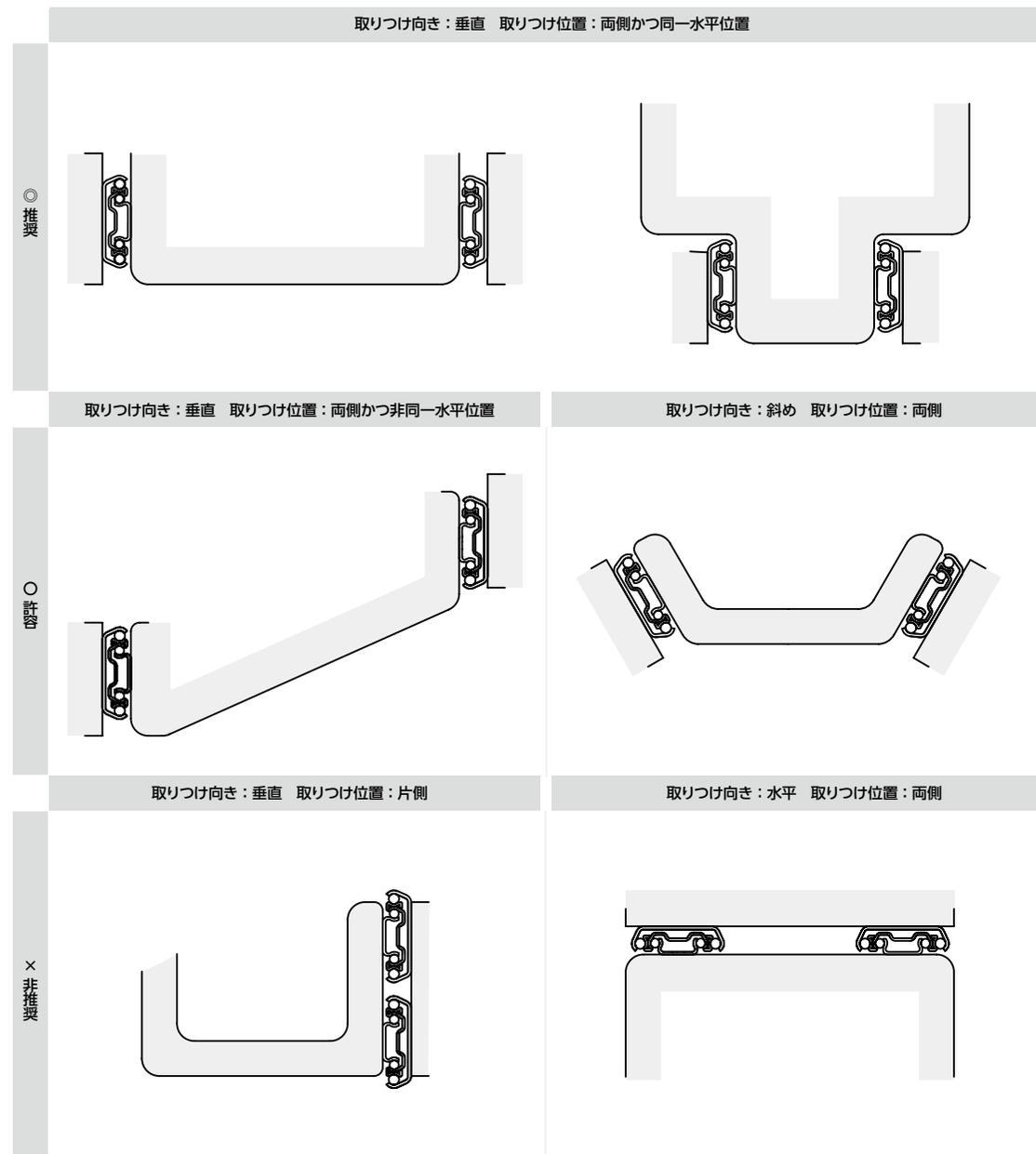
### ● 取り付け位置

スライドレールは垂直方向かつ、両側同一水平位置に取り付けてください。

取り付け向きを水平方向とした場合、垂直方向に設置した場合と比較し、耐荷重が20～25%程度となるため推奨していません。

また、スライドレールはスライド方向が水平になるよう取り付けてください。

以下の例は、具体的な取り付け方法です。



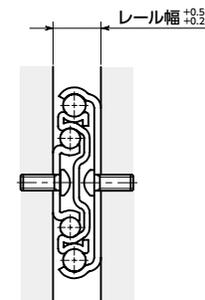
● 水平方向に取りつけた場合、スライドレールを伸ばした際に大きなたわみが発生し、取り付けねじと干渉する可能性があります。

### ● 取り付け方法

スライドレールをご使用の際は、以下の注意事項を守ってください。これにより、スライドレールに加わる摩擦を最小限に抑え、長期にわたり滑らかな動作や静音性を維持します。スライドレールは必ず2本1組のペアで使用し、アウタースライド取り付け面とインナーสライド取り付け面が平行になるよう取り付けてください。

スライドレールにねじれや反りが発生しないよう取り付け穴を配置してください。

スライドレールの取り付け幅は、レール幅+0.2mm～+0.5mmの公差で設計してください。



スライドレールを操作した際に、2本1組のペアが同時に全開位置・全閉位置へ到達するように取り付けてください。

ボールケージは正しい位置に配置するために、取り付け前に一度インナースライドを全開位置・全閉位置まで動かしてください。

### ● 取り付け穴・取り付けねじ

スライドレールの取り付け穴はすべて使用してください。すべて使用することで十分な耐荷重性能を実現します。固定箇所を減らした場合耐荷重が減少します。

インナースライド・アウタースライドにはスライド同士が重なっている場合にも取り付けを可能にする工具用の穴など、取り付け穴以外の穴があります。

これらの穴は設計時の混乱を減少させるため、商品情報やCADデータには表示されない場合もあるのでご注意ください。

推奨取り付け用ねじは各シリーズの商品情報をご覧ください。

推奨ねじ強度区分：8.8

## 使用上の注意

### ● 公差

スライドレールのすべての部品は、品質や寿命を保証する為の寸法公差が設定されています。

移動距離における公差は、構成部品すべての公差を配慮する必要があります。またゴムストッパのわずかな変形も考慮に入れる必要があります。

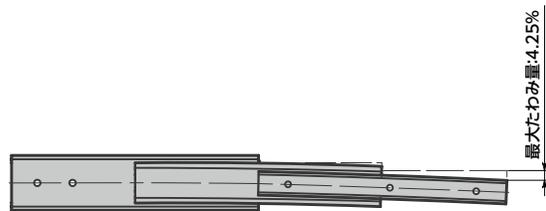
このため、全体的に大きな公差が生じます。公差は各シリーズの商品情報をご確認ください。

### ● たわみ量

スライドレールは全開位置で荷重が加わると弾性的なたわみが生じ、インナーライドの先端部分において特に顕著に現れます。たわみ量は、全閉時の長さ(L寸法)の4.25%以下である必要があります。すべてのスライドレールが最大耐荷重を加えた際に、たわみ量はその数値以下に収まるように設計されています。

例：L=500mmのスライドレールを全開位置までスライドし、最大耐荷重を加えた場合。

たわみ量は最大で21.25mmとなります。



### ● 材質・表面及び耐蝕性

スライドレールは、スチールまたはステンレス製です。スチール製の一部は亜鉛メッキが施された鋼帯から製造し、5~7 $\mu$ mの亜鉛メッキ処理加工を行っています。塩水噴霧試験において、最小72時間の白錆に対する耐蝕性を確認しています。

### ● 移動速度

スライドレールの許容最大スライド速度は0.3m/sです。またゴムストッパやセルフクローズ機構などに過度の衝撃が加わらないように、クローズ時は0.15m/s以下まで減速してください。

### ● ボールクリープ

スライドレールは急な開閉の切り替えや急加速が加わると、特にボールケージ全長が長いものでボールクリープが発生しやすくなります。

ボールクリープが発生した場合、ボールケージは中間スライドやインナーライドの半分の速度で同期して動くことができず、本来位置する場所から離れる可能性があります。

また、移動量が通常より少なくなる可能性があります。

ボールケージを本来の位置に戻すためには、適当な速度でわずかな負荷を加えながらスライドレールを全開位置と全閉位置に動かしてください。

### ● 使用可能環境温度

スライドレールの使用可能環境温度は-20℃~100℃です。上限・下限温度に達する環境下では、スライドレールが正常に動作するかご確認ください。

### ● 潤滑油とメンテナンス

スライドレールは鉱油ベースの無鉛ベアリング潤滑油によって恒久的に滑らかに動かすことが可能です。

ステンレス製にはFDA基準に準拠した潤滑油を使用。これらの潤滑油はH1クラスに属しており、食品との接触を防ぐことが困難な場所でも使用できます。一般的にスライドレールの取り付け位置やカバーの設置といった適切な措置を講じることで、直接の接触を防止することができます。

通常の使用条件下ではボールケージやボールベアリングがスライドの動きに伴って小さな汚れを押し出すため、再給油の必要はありません。ただし、重度の汚染が発生する場合、定期的にスライドレールを清潔な布で清掃し、その後再潤滑する必要があります。

スライドレールに適した潤滑油の例として、以下のものがあります。

- ・Shell Alvania EP 1 (シェル アルバニヤ EP グリース 1)
- ・Klüberplex BE 31 - 222 (クリューパープレックス BE 31 - 222)

## 技術情報

### ● 耐荷重試験

スライドレールの最大耐荷重は、スライドレール本体の仕様と全閉時の長さ(L寸法)、移動距離に依存します。加えて材質やセルフクローズ機構といった部品も大きな影響を与えます。

スライドレールの最大耐荷重は、疲労試験を元に決定しています。

#### 試験条件

- ・2本1組で垂直に設置する。
- ・取り付けに関する項目をすべて遵守する。
- ・たわみ量を同時に測定する。
- ・スライドレールの取り付け間隔は450mmとする。
- ・最長移動距離に達した際に、均等分布荷重Fsを加える。
- ・試験回数は、1万回・5万回・10万回(スライドレールの開閉一往復を1回)とする。
- ・荷重を段階的に大きくし、スライドレールとしての正常な機能を発揮できない時点で試験を終了とする。終了時点の荷重より1段階小さい荷重を耐荷重とする。
- ・各試験毎に、操作性・性能および最大たわみ量を評価する。

